

クビアカツヤカミキリ対策 (奨励品交付事業の継続を)

梁瀬 里 司(令和研究会)



問 昨年度、本市のクビアカツヤカミキリによる桜等の樹木の被害状況は。

答 桜1900本のうち、約7割の1400本で被害がある。

問 成虫を10匹捕まえると500円の商品券を交付する「奨励品交付事業」を本年度は行わないが、市民から事業継続の要望が多く寄せられる。被害拡大を防ぐため事業を継続すべきではないか。

答 被害が市内全域に拡大しており、枯死し倒木の危険性のある樹木も増えている。

今年度は成虫の捕殺よりも、樹木の保護に有効な薬剤注入による幼虫の駆除や、伐採に対する補助制度を創設した。

●水城公園街路灯の設置

問 水城公園の大きな柳がある付近が暗い。交通安全、防犯対策上、街路灯を設置できないか。

答 仮設照明灯の設置等を検討していく。

【その他の主な質問】

○消滅可能性自治体

○災害時の避難所開設

0歳から12歳までの「こども まんなか施策」実現に向けて

岩崎 彰(蒼倫維新)



現在、市は未就学児を対象に新規事業を含めいくつかの施策を進めている。

今後更に小学生を対象に学童保育と併せ、「放課後子ども居場所」を充実させ、子育て世代に選ばれる市となるよう0歳～12歳までの子どもの安全・安心に繋がる「こどもまんなか施策」について質問。

問 本市は、希望する全ての児童を対象とした「放課後の居場所作り」に取り組む考えがあるか。学校再編計画と同時期のこの10年を費やし取り組み考えはあるか。

答 現状では、担い手であるスタッフの確保が課題となっている。

きめ細やかな教室運営及び児童の安全面の確保の観点から、3年生までに限定し、大人の目が行き届く規模で実施しているが、将来の学校再編を見据えた中で、今後、他の自治体の事例等も参考にしながら、学校や地域との連携のもと、より良い教室の体制づくりに努めていく。

行田市への新しい人の 流れを作るために

小野 寺 貴 男(蒼倫維新)



問 通勤の頻度が少ないテレワーク業務を主体とする業種は、本市との相性が良いと考えるが、企業誘致のターゲットとしてIT関連企業、特に本社機能を有する事業所への働きかけをする考えはあるか。また、サテライトオフィスを市の方で設置して、IT関連企業の出先機関として誘致する考えはあるか？

答 働き方の変化に対応した企業誘致を考える上で、テレワークの場として、サテライトオフィスを設置することは、雇用の創出や昼間人口の増加につながるものと考えられる。またサテライトオフィスは空き店舗や空き家などを利用するケースもあることから、既存の施設を活用し企業誘致できるメリットもある。

今後は、機会を捉えて、本社機能を有する企業及び本市への進出に意欲のある企業等へ、サテライトオフィス設置を見据えた営業活動にも取り組んでいく。